

# 樹木採取区の指定について(中部森林管理局)

## 1 樹木採取区の概要と今後のスケジュール

### (1)概要

- 樹木採取区の名称 : 中部1東信・真田樹木採取区
- 森林計画区(流域名) : 千曲川上流
- 森林管理署名・所在地 : 東信森林管理署(長野県上田市真田 そえひやま 傍陽山国有林)
- 樹木採取区指定年度 : 令和3年度
- 主要樹種 : カラマツ
- 林齢 : 55年~79年生(令和3年度時点)
- 伐期 : 60年生以上
- 伐採方法 : 主伐(複層伐(7割)、皆伐(3割))
- 採取区の数等 (参考)

別添位置図参照



採取区面積	約274 ha	設定期間
採取区材積	約58,000 m <sup>3</sup>	10年

採取可能面積	約175 ha (年平均採取面積:約17ha)
採取可能材積	約37,000 m <sup>3</sup> (年平均供給量:約3,700m <sup>3</sup> )

採取可能面積は、権利設定料の算定、採取面積の上限等の算定に用いるための面積であり、実際に採取できる面積とは異なる。

\* 採取及び植栽については、国有林のルールに基づき国土保全等に配慮しつつ確実に実施する。

### (2)今後のスケジュール(※スケジュールについては変更の可能性があります。)

- ① 指定に係る公告縦覧 令和3年7/8~8/6 (30日間)
- ② 樹木採取権制度説明会 7/19(公告縦覧期間中)
- ③ 県・市町村に対する意見聴取 公告縦覧終了後
- ④ 学識経験者に対する意見聴取 公告縦覧終了後
- ⑤ 指定の公示 9月~10月
- ⑥ 公募の開始 9月~10月 (公募期間2ヶ月)
- ⑦ 公募説明会 10月中旬(公募期間中)
- ⑧ 審査・評定・選定 12月~令和4年2月
- ⑨ 県知事協議 令和4年2月
- ⑩ 権利設定 令和4年2月
- ⑪ 運用協定締結 令和4年2月
- ⑫ 実施契約締結 令和4年3月~事業開始



## 2 カラマツの需給を取り巻く現状

### (1) 資源量

カラマツは、長野県内人工林面積の約5割を占めており、とりわけ千曲川上流域は、その蓄積が民有林、国有林とも最も高く、2千万 $m^3$ を超え、県内の約36%を占めており、主要な産地となっている。

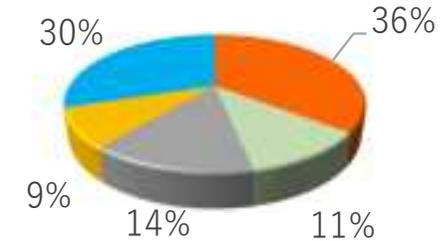
長野県内カラマツ蓄積

単位：千 $m^3$

	千曲川上流	千曲川下流	中部山岳	木曽谷	伊那谷	計
民有林	17,437	5,673	7,038	3,212	15,732	49,092
国有林	4,684	1,189	1,729	1,974	2,927	12,503
計	22,121	6,862	8,767	5,186	18,659	61,595

(民有林：令和元年4月時点：長野県林業統計より)  
(国有林：令和元年4月時点：中部森林管理局事業統計より)

県内カラマツ蓄積流域別割合



■千曲川上流 ■千曲川下流 ■中部山岳 ■木曽谷 ■伊那谷

### (2) 供給の動向

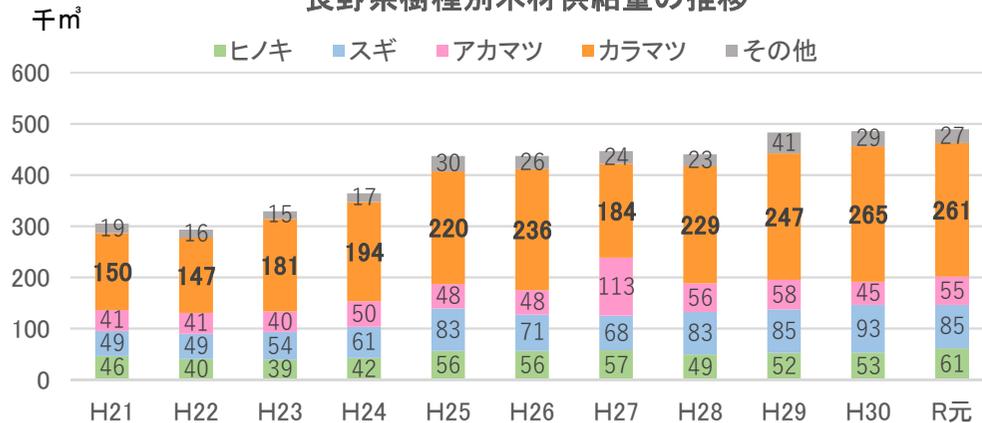
#### ① 長野県全体

長野県の代表樹種であるカラマツは、赤身が強く、年輪が緻密で強度があることから、「信州カラマツ」として各方面での需要が高まっており、供給量は年々増加している。

これは、従来の主たる用途である土木用材としての利用価値の向上や、加工技術の進歩とともにカラマツの強度を活かし欠点を克服する合板や集成材としての需要が伸びていることによる。

また、近年では長野県内関係各機関が連携し、高品質な大径材を信州プレミアムカラマツとしてブランド化をしていることと併せ、元年度に行われた大嘗祭の大嘗宮や、2020オリンピック関連施設等に「信州カラマツ」が使用されたことから更に注目されている。

長野県樹種別木材供給量の推移



(令和2年3月時点：長野県林業統計より)

(土木用材杭丸太)



(合板製造)



(集成材)



(信州プレミアムカラマツ発表)



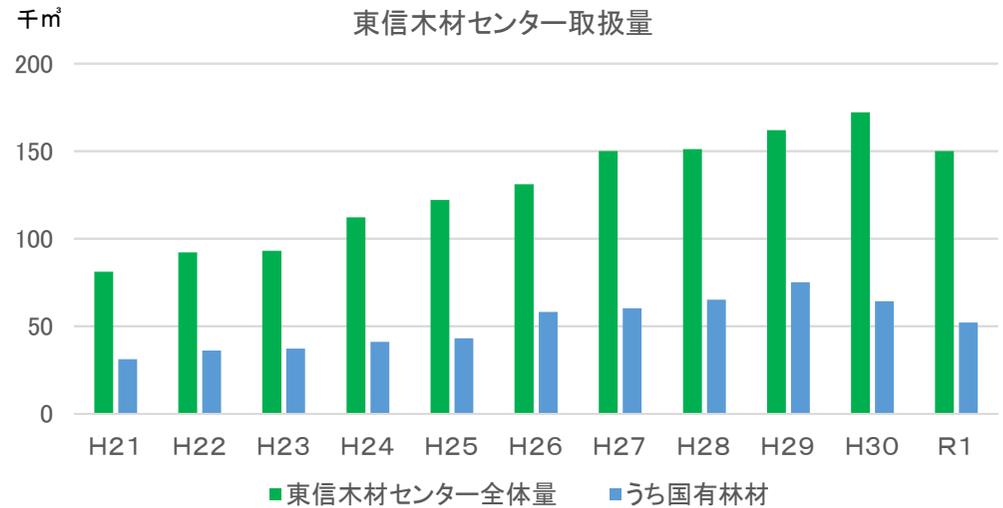
(大嘗宮への利用)



(オリンピック関連施設への利用)

## ②千曲川上流域

千曲川上流域の主たる木材流通拠点である東信木材センター（小諸市）における過去10年間の取扱量の推移を見ると平成21年度当時の81千 $m^3$ が平成27年から令和元年度には150千 $m^3$ ～172千 $m^3$ に増加し、**国有林の下支えにより、民有林材の生産量が増加基調で推移している。**また、本流域のカラマツに対してはコロナ禍においても集成材や土木用材といった分野からの供給ニーズが高い状況。

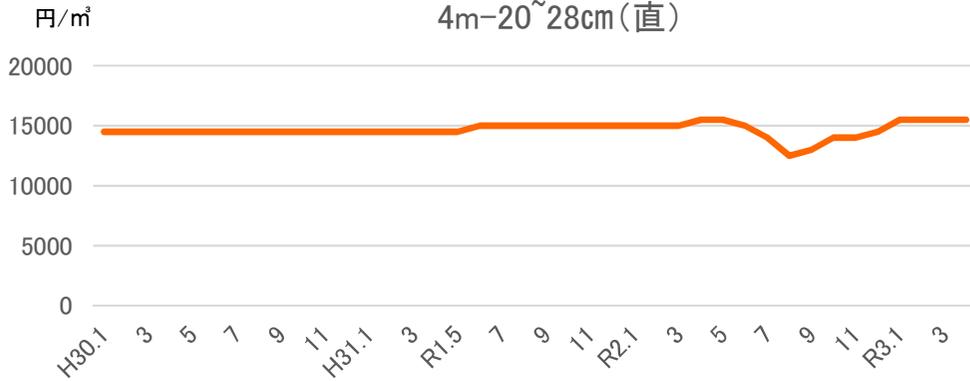


\* R1年の取扱量減は台風19号の影響による

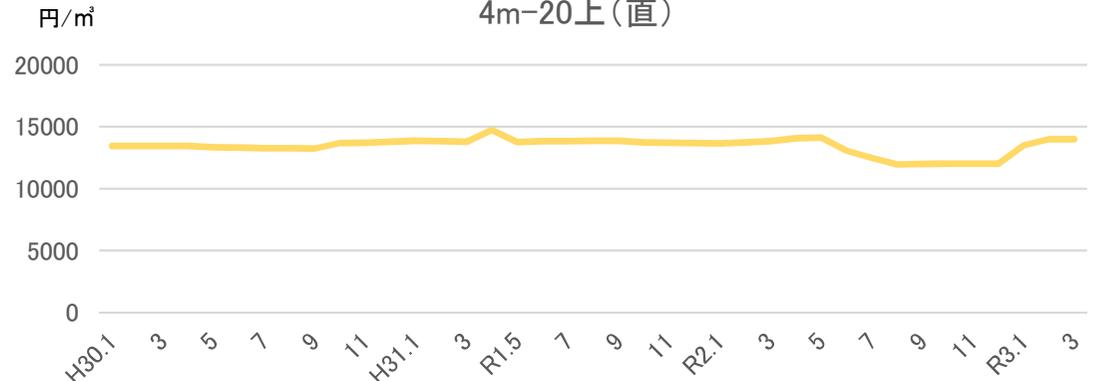
## (2)市況(価格)

昨年からのコロナ禍による経済の停滞により価格が低下した時期があるものの、現在は回復基調となっている。また、下記図が示すように東北信を中心とした過去3年間のカラマツの市況は合板向けや市売り等においても安定している。

長野県産合板用カラマツ価格推移(原木市場積込)  
4m-20~28cm(直)



長野県産カラマツ市場価格推移(北信ブロック)  
4m-20上(直)

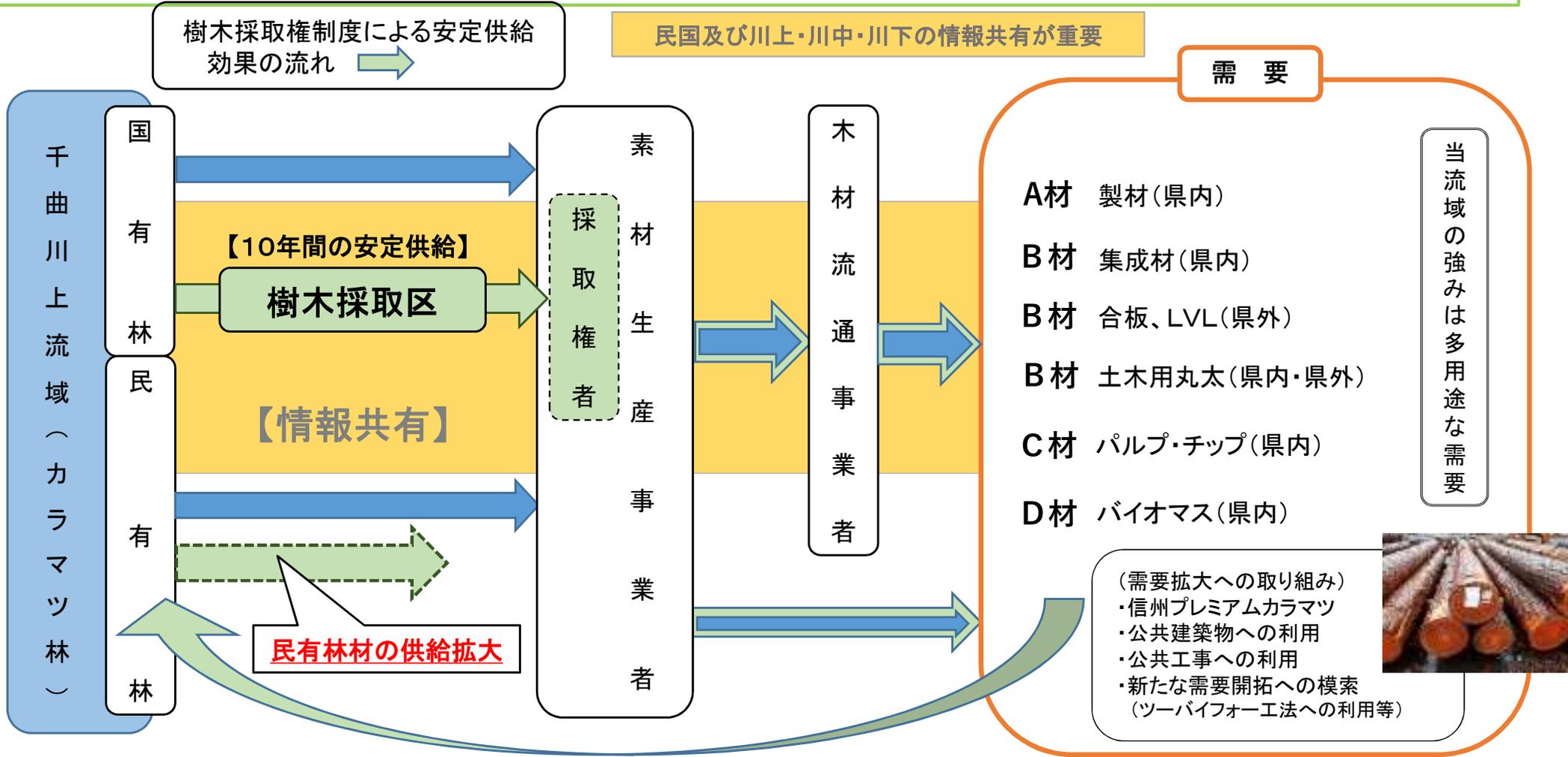


樹木採取権制度により、需要に応じた国有林材の安定供給がより行われやすくなることで**カラマツの信頼性と需要が更に向上し、民有林からの木材供給の増加が期待できることはもとより、地域の林業・木材産業の活性化に貢献することができる。**

### 3 千曲川上流域におけるカラマツ供給の具体的イメージ ～民有林林業への貢献～

全国的にコロナ禍の影響による木材の需給ギャップ(需要と供給力の差)が生じており、市場や工場等においては伐り控えによる原木不足の状態が続いており、特に中小零細企業が多い製材業関係は原木不足が深刻化(A材供給への不安)している。また、本年に入ってから外材の輸入減少、木材価格の高騰により国産材の供給に対するニーズが急速に増大しているところである。

このため、カラマツの需要を満たすためには信州カラマツの優位性を活かしつつ、民有林と連携して需要を喚起することが重要であり、**千曲川上流域の強みである多用途な需要に対応する安定的供給を図ることにより、民有林材の供給増大が期待される。**



樹木採取区の林分は60年生以上から70年生が主体であり、当該採取区の良質なカラマツを10年間継続し毎年一定量を販売することにより、特に地域の木材産業の基盤ともいべき製材業(A材)への供給を安定させるとともに**地域全体の木材産業の底上げを図ることが可能。ひいては民有林の森林整備と木材生産の後押しに貢献。**

## 4 林業経営体の育成

森林経営管理制度の要となる林業経営体の育成にあたり、現在、長野県内で意欲と能力のある林業経営者として認定されているのは43社、うち当該流域においては9社となっており、民有林・国有林の双方で事業を実施している経営体が多い。こうした経営体を樹木採取権制度で育成することにより民有林におけるより効率的な施業が可能となり、山元立木価格の向上に貢献。

令和3年6月1日現在

	千曲川上流	千曲川下流	中部山岳	木曾谷	伊那谷	長野県計	(参考)
意欲と能力のある林業経営者	9	6	5	8	15	43	
育成を図る林業経営体	13	2	11	4	16	46	

(長野県公表資料より)

### これまでの当局における事業体育成への取り組み

#### 労働生産性の向上

中部局では木材需要の拡大に伴う安定的・効率的な素材の生産体制を確立するため、平成27年度より事業体及び民有林関係者と連携し生産性の向上に取り組んでいる。

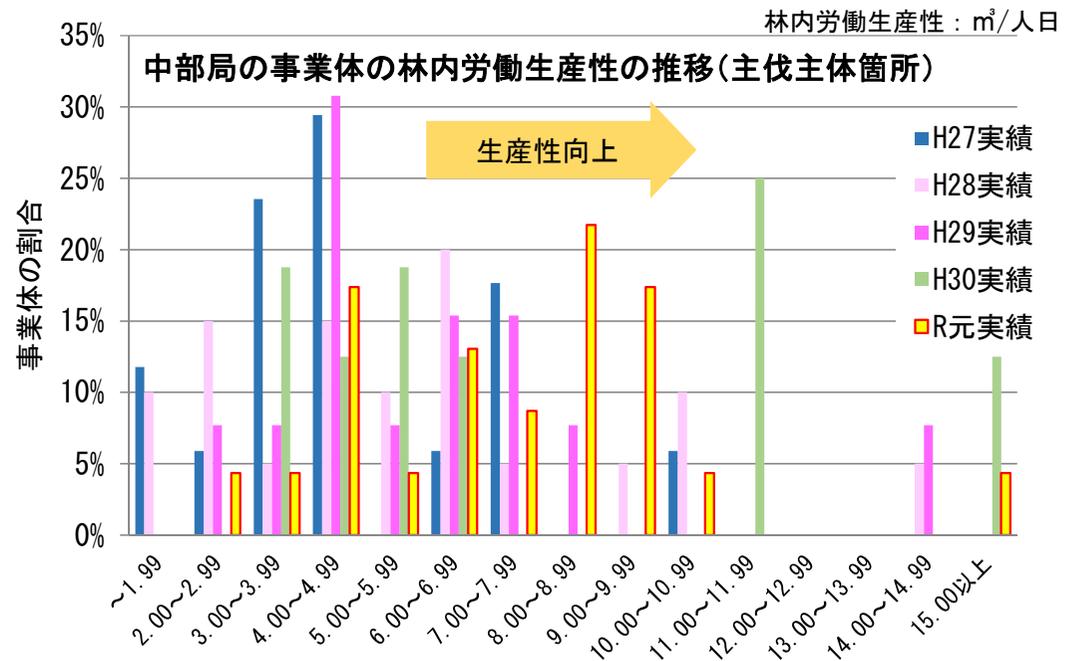


#### 労働安全の確保

関係機関と連携した安全パトロールの実施や契約時等における安全指導等に取り組んでいる。

このほか事業の早期発注や複数年契約、地域力活用型立木販売\*の実施、入札方法の改善等を通じて事業体の育成に取り組んできたところ。

\*事業量が少なくなる時期の実行に限定した立木販売



年度ごとのピークが徐々に右へ移動（生産性が向上）していることが判る。

樹木採取権制度を通じ、林業経営体の事業量の安定的確保を図り、当該流域における森林経営管理制度の円滑な実行に資することとする。

## 5 採取方法及び確実な更新(植栽)

国土の保全及び多様で健全な森林づくりに配慮した採取方法とする。

### (1) 当該流域の樹木採取区における採取方法

○ 複層伐(全体の7割)  
群状及び帯状により、伐採率は70%以内(一部50%以内)。

➡ 育成複層林へ

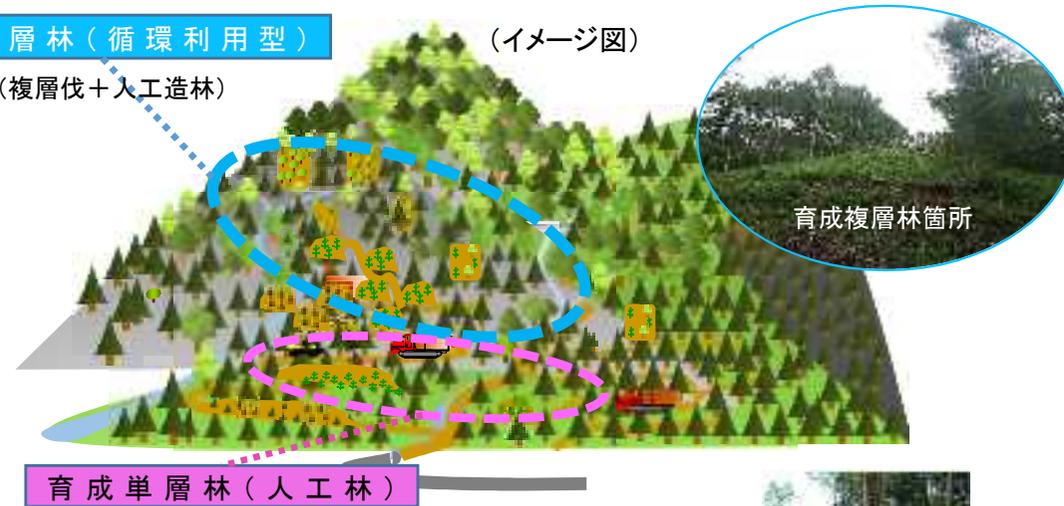
○ 皆伐(全体の3割)  
1伐区5ha以下とした小面積分散型。

➡ 育成単層林へ

育成複層林(循環利用型)

(複層伐+人工造林)

(イメージ図)



育成単層林(人工林)

(通常伐期(皆伐)+人工造林)

育成複層林箇所

### (2) 採取跡地の植栽(更新)

○ 請負契約による確実な植栽  
国と採取権者との間で造林事業請負契約を締結することにより、国の責任により確実に植栽を実施。

○ 伐採造林一貫システムによる効率的な植栽  
採取権者が国の委託を受けて植栽を行うことにより、伐採と造林を一貫して行うことが可能となり、効率的かつコストの低減に寄与することが可能。

○ 法令に基づいた一定期間での植栽  
当該地は、全て水源涵養保安林であることから法令に基づき、伐区ごとに伐採後2年以内に植栽を完了させる。

更新作業を短縮し確実に植栽

【伐採】



【伐出機械を活用した機械地拵】



【植栽】



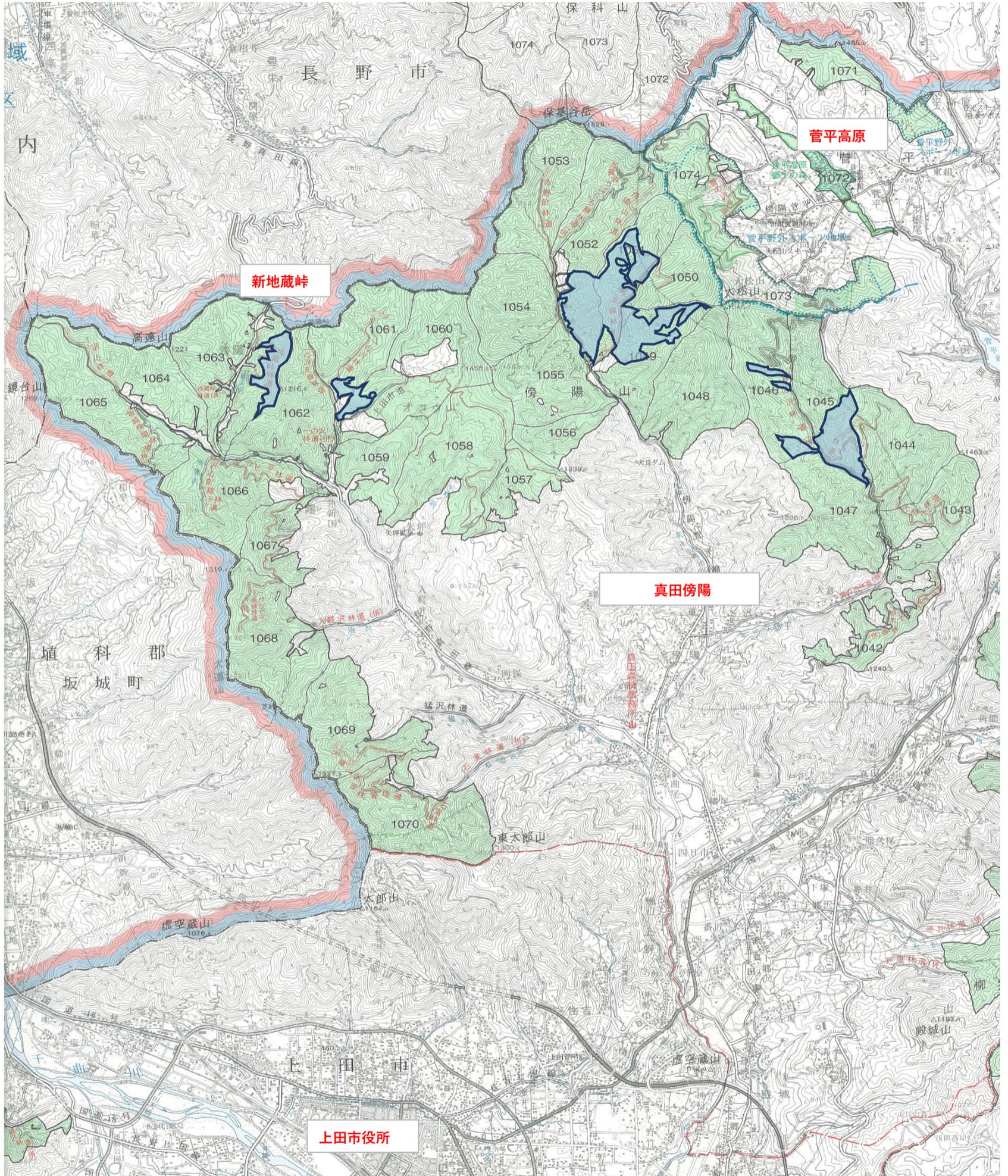
【伐出機械を活用した苗木運搬】

伐採・造林一貫作業による効率的な植栽

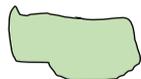
採取権者との請負契約により効率的かつ確実な植栽を行う。

# 中部1東信・真田樹木採取区 概略位置図

東信森林管理署管内 傍陽山（そえひやま）国有林



凡例



国有林



樹木採取区区域界